

## SGH企画 1年生現代社会 高大連携講座（中部学院大学）

対 象： 第1学年

日 時： 平成27年11月17日（火）、平成27年12月8日（火）、平成27年12月15日（火）

講 師： 中部学院大学経営学部

網野千代美教授 「価値観の違いをどう理解し合うか～言語から探る～」(1年3組・5組)

金川昇平教授 「新商品開発とグローバル化」(1年4組)

畠山久志教授 「アベノミクスの現状と行方」(1年2組)

安藤信雄教授 「情報化社会の経営のあり方」(1年1組)

藪下武司教授 「市場メカニズムと家計・企業の経済行動について」(1年7組)

中川雅人准教授 「未来のビジネスを考える」(1年6組)

1年生全員が、「現代社会」の学習内容について、大学で専門的に研究している先生方から、最先端の研究成果に基づくお話をお聴きし、授業の内容をベースにさらに発展的に知識を深めることができました。事前に大学の先生方から提示していただいたバラエティに富むテーマの中から、クラスごとに希望調査を行い、今興味関心のある内容について講座を設けていただきました。



網野教授(11/17 3・5組)



金川教授(11/17 4組)



畠山教授(12/8 2組)



安藤教授(12/8 1組)



藪下教授(12/15 7組)



中川准教授(12/15 6組)

## <生徒の感想>

### ■ 安藤教授(1年1組)

- 情報社会での経営のあり方について学びました。普通にものを生産する場合、たくさん人を雇って作れば儲かると単純に思っていたけれど、そうではなくて、固定費用や可変費用などのバランスを考えて行うことが利益につながるのだと、初めて知りました。また今のような情報社会だと、「ものづくり」より折り紙のカエルのように自分達だけのオリジナリティをだしていくことがより利益に繋がるのだとわかりました。
- 情報づくりとものづくりの違いがわかりました。設計図等を発見することが情報づくりだということがわかりました。おり鶴を使って1人あたりの生産量を求める方法は分かりやすく楽しかったです。アップルは情報を作っているだけだけれど、みんなの需要が多いから料金が高くても売れて、利益も多くなっていることを初めて知って、驚きました。

### ■ 畠山教授(1年2組)

- 今回の高大連携講座は、事前の希望調査で選んだものでもあったのでとても楽しみでした。自分でも経済学について興味があったので、アベノミクスの影響を詳しく聞くことが出来ればよいなと考えていました。非常にためになる話を聞かせて頂いたので、有意義な時間ではありましたが、もう少し他の子との意見交流などもしてみたかったなと感じました。
- 今まで私は「アベノミクス」のおかげで景気が回復しているとばかり思っていました。でも、まだまだ課題があるのだとわかりました。今日話を聞いて、テレビで放送されている事だけじゃなくて、違う視点からの意見を知ることができたので良かったです。今の日本の経済の様子やどのように変化してきたのかなど詳しく知ることができました。これから私たちがどうしていかなければいけないのかについても理解できたので良かったです。今回学んだことをこれからの選挙などに活かしていきたいです

### ■ 網野教授(1年3組)

- 英語と日本語の違いをあらためて教えてもらうと、いつも意識していないのに意外と多くの違いがあるのだなと思いました。英語を上達させるには日本語との相違点を考えることも大切なのかもしれません。私のSGH研究は今日のお話に関係があることなので、外国人の価値観も踏まえてこれから考えていきたいです。後半の話はほとんど英語の授業でしたが、とても楽しく学ぶことができました。
- 言語に関する興味深い話を聴くことができました。言語という点での文化の違いについて理解が深まりました。やや方向性は異なりますが課題研究にも役立つ話だったと思います。今回の講座で一つ衝撃的だったのは、英語の映画を見たときのことです。まったく内容を聞き取ることができず、僕の英語力もまだまだだと感じました。今後英語力

を磨くため、より一層努力していきたいと思います。

## ■ 金川教授(1年4組)

- シリコンバレーで日本の中小企業が取り組んでいる話を見て、日本の中で考えるよりも、世界中の人々の考えを聞くことで、より自分たちの想像力などを膨らませることが出来ると学びました。そして、最も重要なのは、『自分たちが世界を変えたいのか?』ということです。私も、今、世界ではどのようなことが起きているのか新聞やテレビを見て考えて、どのようにしていけばいいのか家族で話し合ってみたいです。
- 日本はもっと国外に目を向けて国外でビジネスを発展させ、それを日本でさらに発展させていくことが日本の経済成長につながると思います。またシリコンバレーのような地域を日本にも作ることで日本国内でビジネスを発展させていくことができるようになると思うので、21世紀の日本経済の第一歩はそれを作ることだと思いました。

## ■ 網野教授(1年5組)

- 今日の講座をきいて、言語からもその土地の人の価値観の違いがわかることがあるのだと初めて知りました。否定の疑問文での受け答えでは、英語と比べて日本語ではワンクッションあることに気付きました。洋画から学ぶ時間では、今まであまり洋画をみたことがなかったのでとても惹きつけられました。時間があれば洋画をみて、英語を少しでも学びたいです。
- 私は英語に大変関心があります。しかし日頃からイントネーションの違いや文法の違いなどあまり考えてません。だから、今回日本語と英語の違いをたくさん知ることができました。海外の映画を見るのも楽しかったです。映画を見て、わたし達が話す英語とかなり発音などが違う、と感じました。文字同士がつながって発音されてたり…。世界ではいろんな英語があることがわかりました。どんどんグローバル化が進んでいるので今回の話を将来に生かしたいなと思いました。ありがとうございました。

## ■ 中川准教授(1年6組)

- ここ十年の経済の進歩の仕方がよく分かり、どう進歩したかが理解できました。また、世の中で新しく開発された商品などが、とてつもない発想力と想像力で出来上がった事がこの講義を通じてわかりました。
- 今、世界が情報社会になっている中で、ビジネスの仕方も変わってきていることがわかりました。企業と個人の間での商品開発や取引ができるようになってびっくりしました。ずっと家の中にいなければいけない人たちも、自分たちの好きな仕事ができる環境があつて良いと思いました。将来、私が働くときになったとき、もっと進化した環境で働くことができるのが楽しみです。
- 最近のビジネスはいろいろな技術の発達によって、大きく変わってきていることがわかりました。特に田舎でも都会と同じような仕事ができると知って驚きました。新しいビ

ビジネスを考えることは、とても難しかったです。普段の不満を解消するためにはどうすればいいかと考えることがとても楽しかったです。将来、情報通信技術を有効に使っていきたいと思いました。

## ■ 藪下教授(1年7組)

- 今日の話聞いて、今まで経済にほとんど興味がなかったけれど、奥が深く面白そうだなと思いました。経済では知らない損をするようなこともたくさんあると思うので、興味を持ったことは調べてみたいと思いました。
- 経済学という大きな学問の中からいくつかを教えてもらって、僕が今まで思っていた以上に奥が深い学問だとわかった。日本人が唯一ノーベル賞をとっていない分野なので、誰かにとってもらい、もっと日本の経済が発展して行ってほしいです。
- 自分たちの身近な例を挙げて説明していただいたので、全てとはいきませんでした。大半は理解できました。苦手な経済を少し克服できた気がします。